

第74回全日本バレーボール高等学校選手権大会 愛知県代表決定戦

2021年11月23日

会場: エントリオ(豊田合成記念体育館)

■女子決勝

岡崎学園高等学校	3	23	第1セット	25	1	愛知江南学園誠信高等学校
		25	第2セット	19		
		25	第3セット	21		
		25	第4セット	22		
			第5セット			

馬場 (2年)	カンポス (2年)	先発メンバー	橋本 (2年)	早坂 (2年)
谷口 (2年)	鷲谷 (3年)		吉田 (1年)	小田 (2年)
曾我 (3年)	中山 (2年)		大川 (3年)	澤田 (3年)
串間 (2年)	豊田 (3年)	リベロ	小島 (2年)	西辻 (3年)

<戦評>

第71回・72回大会に続く三度目となった決勝戦での両校の対戦は、第1シードの岡崎学園高等学校(以下岡崎学園)が、第2シードの愛知江南学園誠信高等学校(以下誠信)を3-1で破り、2年ぶりに愛知県の代表校の座を手に入れた。

第1セットは、誠信が序盤に4連続得点・7連続得点を奪って16-9と優位に立った。相手コート中央へのフェイントが効果的に決まり、またキャプテン橋本のライトサイドからの強力な攻撃がチームの原動力となった。セットを失った岡崎学園だったが、終盤の5連続得点で23-23と追いつき、第2セットへと流れを導いた。

第2セットは、反対に岡崎学園が4-7からの6連続得点で逆転すると、前セットで苦労した相手のフェイント攻撃にも対応し、最後まで誠信の追従を許さなかった。特に、ラリー中でも積極的にミドルブロッカーヘツを供給するセッター中山の采配が光り、高い攻撃力を巧みに操った。

第3セットは互いにライトサイドからの攻撃がよく決まり、中盤まで競り合いとなった。抜け出したのは岡崎学園で、16-18とビハインドの場面から4連続得点で逆転すると、20-19からカンポスの強打などでさらに3連続得点を奪って優位に立った。カンポスと中山は小学校4年生から一緒にコンビを組んできただけあって、この大舞台でも存分に実力を発揮し、ラリー中のセンターからの攻撃が何度となく相手コートに突き刺さった。

第4セットはこれまでのセットと違って、3点以上の連続得点を岡崎学園が4回、誠信が2回と、連続得点を互いに奪い合う大味な展開となった。ゲームの最終局面でもその流れは続き、20-22とリードを許した岡崎学園が、そこから怒濤の5連続得点で一気に試合を決めた。この場面では特に曾我的ライトサイドからの強打が目立ち、実に3本のアタックを相手コートに打ち込んだ。

5年連続で決勝戦(代表決定戦)まで勝ち上がり、2年連続の春高全国大会出場を目指した誠信だったが、その夢は叶わなかった。

■作成者: 富田 崇